

平成27年度第2回奈良県学校・地域パートナーシップ事業

地域コーディネーター連絡会 実施報告

- 1 日時 平成28年1月31日(日) 9:30~11:30
- 2 会場 香芝市中央公民館 第5・6研修室
- 3 参加者 県内学校・地域パートナーシップ事業 地域コーディネーター 計 36名
- 4 内容 9:30~ 9:35 開会
9:35~10:05 講演「地域コーディネーターの活動の充実のために」
奈良県学校コミュニティ・コーディネーター 有田 佐
10:10~11:25 情報交換・意見交流
11:25~11:30 閉会



5 講演概要

1. 学校と地域の協働（子どもたちの課題解決に向けてともに活動すること）がうまくいっている取組

- 異なる年齢の人々と交流する取組・命や福祉を考え、自尊感情を育むことにつながる。
- 伝統行事、伝統芸能等を体験する取組・地域の人々に営々と受け継がれてきた心こふれることができる。
- 授業等で教職員とボランティアが協働する取組・たとえば、小学校の英語の授業では、ボランティアが支援者ではなくパートナーとして活躍することにより、授業の質を高めている。
- 子どもの安心を育む取組・たとえば、登下校の見守りや昔遊びの体験では、子どもと高齢者の間に心のふれあいが深まってきている。

2. コーディネーターの悩み・克服しなければならない課題

- ボランティアの人材不足やスタッフの固定化・高齢化。
- 特定の人に重い負担がかかり、その方が疲弊してしまう。
- 学校の「敷居の高さ」を感じる方がいる（地域の方が学校に入る際、学校側が抵抗感をもっているように感じる）。

3. 学校の「敷居の高さ」の背景にあるもの

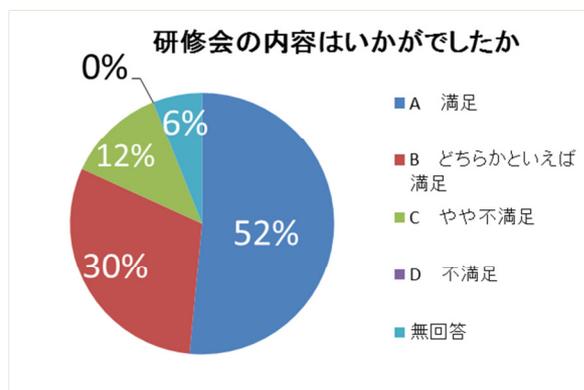
- 学校は繊細なプライバシーに関わる問題を抱えているので、時として外部に対して閉鎖的になることがある。
- 学校には自主性・自立性を重んじる風潮があり、それが地域の方にとって「敷居の高さ」と映る。

4. 諸課題の克服に向けて大事にしたい視点

- 学校とボランティアが互いに信頼し、協働することを大切にする。やがて、両者が課題を共有できるようになり、克服につながっていく。

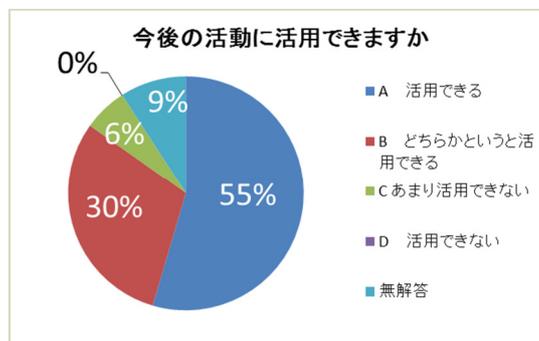
5. 今後の課題

- ① 今後も普及・啓発活動を継続させていく。 ② コーディネーターの役割を充実させる。 ③ コーディネーター同士が情報を共有し、ネットワークを構築する。 ④ 組織化・推進体制づくりを行う。 ⑤ 地域の実態・地方創生の観点をふまえる。



6 情報交換

- ボランティアが活動する写真や報告書を学校に掲示して啓発することが、学校の「敷居の高さ」を克服することにつながっている。
- 登校する児童の様子で気になったことがあれば、ボランティアが学校に連絡している。これにより、学校とボランティアの距離が近くなってきている。
- 中学校では、職業体験でボランティアが活躍しているところがある。また生徒・教職員・ボランティア三者が一緒にカーテンの洗濯・修繕しているところもある。みんなが喜んで活動することが大事なことである。



7 参加者の感想より

- 地域により、様々な活動があることを知った。みなさんの子どもたちへの愛情を強く感じた。
- この事業が盛り上がることで、子どもも学校も地域も元気になるのではないかと。学校と地域が互いに尊敬して、信頼し合える関係になることが必要である。

